

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

『久米島ドリ一部チャレンジ』～住民と行政と議会が協力した移住定住推進への取組～

2 取組期間

平成 29 年度～（継続中）

3 取組概要

沖縄県の久米島町が『第2次久米島町総合計画』（平成27年策定）において掲げた目標「人口減少に歯止めをかける」に向け、「住民と行政と議会が協力して移住定住の推進に取り組むアクションプラン」として『久米島ドリ一部チャレンジ』を策定。同時に活動に取り組むチームとして結成された団体。住民、行政、議会による定期的なミーティングや情報発信、交流の場の企画・運営などに取り組む。

4 背景・目的

- ①「第2次久米島町総合計画」（平成27年策定）にて、“人口減少に歯止めをかける”が目標として掲げられる。
- ②「久米島町移住定住推進アクションプラン」策定に向け、策定委員会と、住民部会を発足。（平成28年6月）
- ③策定委員会と住民部会を重ね、「住民と行政と議会が協力して移住定住の推進に取り組むアクションプラン」として、『久米島ドリ一部チャレンジ』を策定。同時に活動をしていくチームも結成した。（平成29年3月）

5 取組の具体的内容

～ドリー部チャレンジ（全体）としての主な活動内容～

①ドリー部チャレンジリーダーズミーティング

ドリー部チャレンジに所属するチーム（9チーム）のリーダーが集まり、各チームの活動状況報告や課題相談、情報の共有を行う。 ※毎月第一土曜日（約2時間）

②ラジオ「ドリー部チャレンジ！」の放送

ドリー部チャレンジに所属するチームが、FMくめじまにて持ち回りで、活動報告や開催イベントの告知等を行う。 ※毎週木曜（30分）

～ドリー部チャレンジに所属する各チームの主な活動内容～

①久米島ブロガーズ

移住促進の一環として、毎月定例で島内のブロガーが集まり、お題を設定して続々とブログを更新し、久米島のリアル情報を発信する。

②結（むすび）の会

定住促進の一環として、島内にいる結婚希望者同士の交流の場を企画、運営する。

③チームつなぐう

定住促進の一環として、「第2次久米島町総合計画」の進捗状況を島内皆で共有できるよう、発表大会を開催する。

④定住サポーターズ

移住定住促進の一環として、移住者が不安なく島に馴染んでいけるような場作り（毎週定例お茶会開催、農業同好会運営など）をする。

⑤くがに子育て

移住定住促進の一環として、子育て中の住民が集まって話せるような場、子育てカフェを毎月1回開催する。

⑥うまんちゅ活躍隊

定住促進の一環として、島内での困りごとを住民同士で「お互いさま」と助け合える様な仕組みを作るべく、必要な情報を収集する。

⑦島ぐらしコンシェルジュ

1) 移住者と住民のコミュニケーション不足解消の一助として各字の紹介チラシを作成する（KSJ活動）。

- 2) 転入出アンケートを実施し、人口減少の原因、課題を探るデータを蓄積する(島コンラボ)。
- 3) 島が必要とする人を誘致もしくは育成して確保する活動に取り組む(youの誘致・育成)。

⑧議会改革チーム (久米島町議会議員にて構成)

住民活動への理解を深め、議会の活性化に活かす。

⑨総合計画推進委員会 (久米島町役場職員にて構成)

総合計画を効果的に推進するため、実施計画の策定、その進捗及び効果検証を行う。

6 特徴 (独自性・新規性・工夫した点)

人口減少に歯止めをかけるには、「すべての世代が生き生きと暮らせるまちづくり」に取り組む必要がある。それを行政のみに任せるのではなく、町民が自分たちでできることをやっという想いで、住民が主体となって6つのチーム(現在は9チームに発展)からなる組織を立ち上げた。第2次久米島町総合計画「夢つむぐ島」の夢実現のため、“部活動のように楽しく取り組む”をスローガンとして、『久米島ドリ一部チャレンジ』と名付けた。

行政・議会も加わり、それぞれの立場での活動と定期的な情報共有のための会議を行っている。

久米島の特徴のひとつとして、「移住者を受け入れる力」をあげることが出来る。ドリ一部チャレンジでは、地元住民と移住者が互いに協力し、各々が活躍できる分野で活動をしている。中でも、地元住民と移住者のつなぎ役となる「定住サポーターズ」は、リーダー自身が移住者であり、自信の経験を踏まえて活動している。移住者の話を聞き相談に乗れる茶話会の開催、また、農業同好会を結成し農作業を通して地元住民と移住者との交流も図っている。

島での子育て環境を考える「くがに子育て」では、親や親類と離れて暮らす子育て世代にとって、身近に子育ての相談を出来る人がいない、友人がいない状況を救う一助となる、「子育てカフェ」を毎月開催している。離島だからこそ陥る可能性のある問題に目を向けており、地元住民と移住者の協力体制の構築も図っている。

7 取組の効果・費用

- 島ぐらしコンシェルジュが、「YOU の誘致・育成」活動として行った「Uターンキャンペーン」（島内にある求人情報を紙面にまとめ、町の広報誌と共に全戸配布）では、普段、ネットを見ない人にも島内にも求人がある、Uターン促進の発信の一助となり、活動への賛同の声が寄せられた。
- 島内在住の結婚希望者への交流の場を企画、運営する「結の会」では、これまでに、島内飲食店での食事会とバーベキューを開催した。結果、数組のカップルが誕生している。また、若者が同世代と知り合い交流したことにより、さらにその先の交流への発展も見られ、島内活性化の一助となっている。
- 住民が「未来の久米島」について真剣に考え、自分事として住民主体となって行うまちづくり活動は、これまであまり接点を持つことのなかった住民同士が繋がる機会を創出した。
- 移住検討者から、『「ドリー部チャレンジ」のような、住民が自分達自身でさまざまな活動を起こしてまちづくりに取り組んでいる様子は、これから移住する者としてとても心強い』という感想をいただいた。移住・定住促進のために動き出した活動であるが、何より、自分達の住む島の未来のために、協力し、楽しく活動できる「人」が、外へ発信できる大きな魅力の一つであることが判明した。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

現在の計画の前身となる「第1次久米島町総合計画(平成16年～25年)」による取組においては、住民が取組状況を把握することが難しかったことが課題であった。住民・行政の活動をお互いに確認する機会が乏しいことがその要因であった。

その反省をふまえ、現行の「第2次久米島町総合計画」の進捗状況を住民全体で共有するため、島内で取り組まれている様々なまちづくり活動を、総合計画にある「基本構想図」に沿って発表する町民大会を実施することとした。

- ・第1回大会開催日時：平成29年11月23日(祝) 14:30～16:30
- ・場 所：久米島町具志川農村環境改善センター
- ・大会名：「久米島8,500人の夢まつり ～町民の町民による町民のための島づくり～」
※「8,500人」は、第2次久米島町総合計画における将来人口目標。
- ・参加(来場)人数目標：200人

第2次総合計画は、平成28年～平成37年の10年計画としてたてられているため、チームつなぐうは活動の報告大会(町民大会)を平成29年から9年間開催することを目標としている。

現在、ドリー部チャレンジとして、毎月1回のリーダーズミーティングを行うことで、様々な立場(住民・議員・行政)、分野で活動する者同士が繋がる仕組みが出来始めた。また、毎週1回(30分)のラジオ番組をチームごとに持ち回りで担当することにより、「ドリー部チャレンジ」をきっかけとして、まちづくりへの意識を広げている。少しずつ、これまで接点のなかった住民同士のつながりも増え始めている。

9 今後の予定・構想

今後は、久米島の自然エネルギーの活用に取り組むチームや、島内の空き家の利活用に取り組むチームの発足が期待されている。

また、島内で活動している経済5団体（商工会・観光協会・JA・久米島漁協・久米島紬組合）と情報を共有し、島一丸となって住民主体のまちづくり活動を広げていくことが目標とする展開である。

同時に、より多くの住民が、それぞれ可能な分野で参加できる機会を作り、体制にしていくことも必要と考えている。



10 他団体へのアドバイス

住民主体のまちづくり活動を広げていくためには、ビジョンとその進捗状況を住民全体で共有することがポイント。

より多くの住民が、それぞれが可能な分野で参加できる機会を作り、これまで接点のなかった住民同士の繋がりやまちづくりへの意識を広げながら、体制を構築することが必要。

11 取組について記載したホームページ

久米島ドリ一部チャレンジ

<http://shimagurashi.net/d-challenge/>

島ぐらしコンシェルジュ

<http://shimagurashi.net/shimacon/>

久米島ブロガーズ

<http://shimagurashi.net/shimagurashis/dreab-blogger1705/>